

第84期 第2四半期 株主通信

2019年4月1日から2019年9月30日まで



Vitamin Report

ごあいさつ



代表取締役会長

榎美保

代表取締役社長

山本一彦

株主の皆さまには、平素より格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

当社は2019年8月に創立70周年を迎えました。これもひとえに株主の皆さまをはじめ、関係各位の温かいご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

2018年4月よりスタートし、本年9月末で折り返し地点を迎えた現中期経営計画では、国内事業の収益基盤強化と海外事業の成長エンジンの加速化、そして新領域への挑戦で持続的成長と競争力のある企業を目指す方針を掲げております。目標達成に向けて、各事業における課題を認識し、諸施策を着実に遂行してまいり所存です。

また、10月には食品用改良剤の新研究開発施設「アプリケーション&イノベーションセンター」を開設しました。国内市場でますます多様化するニーズへの対応と、海外の成長エリアへの提案に積極的に取り組み、新たな価値を創造してまいります。

今後とも変わらぬご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

2019年12月

株主の皆さまへ

《 当第2四半期連結累計期間の概況 》

当社グループの当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高が過去最高の483億36百万円(前年同期比10.4%増)、営業利益が33億75百万円(同46.3%増)、経常利益が30億78百万円(同43.2%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益が21億5百万円(同35.3%増)と、いずれも前年同期を上回りました。

「国内食品事業」においては、「家庭用食品」「業務用食品」でドレッシングの売上が減少しました。「家庭用食品」の「ふえるわかめちゃん®」や「業務用食品」の冷凍海藻は堅調に推移し、「加工食品用原料等」では食品用改良剤の伸長や医薬用マイクロカプセルの実績回復もありましたが、事業全体では売上、営業利益とも前年同期を下回る結果となりました。

～現中期経営計画の基本コンセプト～ (2018年4月から2021年3月までの3年間を対象)

成熟市場にある国内事業では収益基盤のさらなる強化

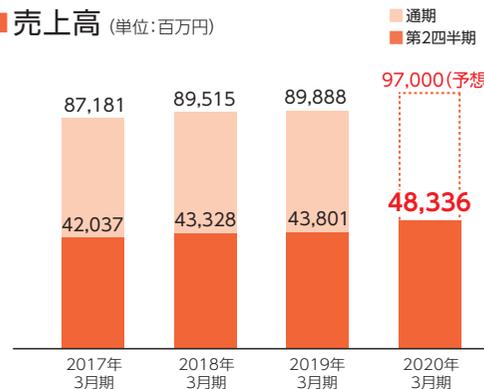
独自の技術力・開発力に磨きをかけ、新領域に挑戦

拡大市場にある海外事業では構造基盤の強化による成長エンジンの加速化

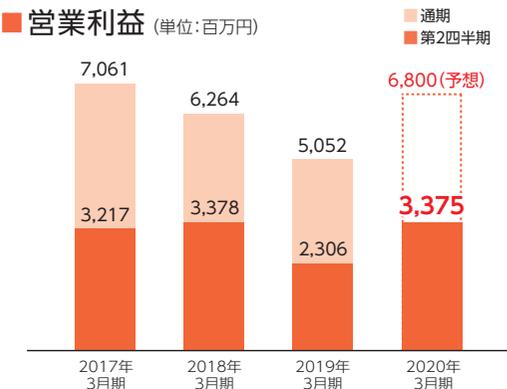
CSR経営の推進

を基本に据え、持続的成長が可能な競争力のある企業を目指す。

■ 売上高 (単位:百万円)



■ 営業利益 (単位:百万円)



「国内化成品その他事業」につきましては、化粧品分野への新規提案が着実に伸長しましたが既存分野での売上が減少し、事業全体での売上および営業利益は前年同期を下回りました。

「海外事業」では、「改良剤」分野において既存市場の深耕、新市場の開拓ならびに高付加価値品の拡販を行った結果、売上、営業利益とも前年同期を上回りました。主に水産加工品を扱う「青島福生食品有限公司」につきましては、売上が前年同期から大幅に伸長し営業黒字に回復しました。この結果、事業全体では売上、営業利益とも前年同期を上回りました。

なお、中間配当につきましては1株につき40.5円とさせていただきます、2019年12月5日よりお支払いを開始いたします。

《 今後の見通し 》

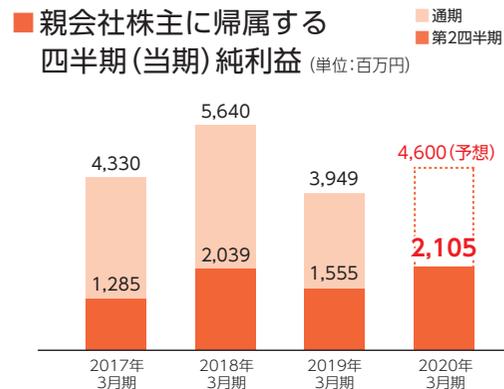
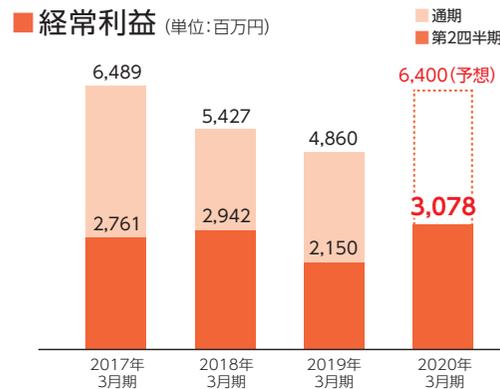
日本国内における個人消費は、消費増税の影響を受けつつも雇用・所得環境の改善により堅調に推移する一方で、輸出産業や海外市場においては米中通商摩擦の長期化や中国経済の減速等、各国の政治動向および地政学的リスクの高まりにより、先行きに予断を許さない状況が続くことが予想されます。

このような経済情勢のもと、当社グループは本年9月末で折り返し地点を迎えた「中期経営計画」の達成に向けて全力で取り組みます。当社のコア事業である「食品」「改良剤」「ヘルスケア」の3分野について収益体質の強化をさらに進める一方、各事業の連携を強化して独自の技術力・開発力に磨きをかけ、新領域へ挑戦していくことで、持続的成長と競争力のある企業を目

指してまいります。

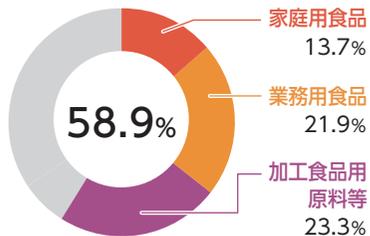
当期の年間見通しにつきましては、売上高970億円（前期比7.9%増）、営業利益68億円（同34.6%増）、経常利益64億円（同31.7%増）、親会社株主に帰属する当期純利益46億円（同16.5%増）を見込んでおります。

株主の皆さまにおかれましては、一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。



国内食品事業

▶ 売上高構成比



▶ 売上高

289億17百万円
前年同期比**98.1%**

▶ 営業利益

24億64百万円
前年同期比**85.7%**

▶ 売上高の推移 (単位:百万円)



▶ 営業利益の推移 (単位:百万円)



事業内容

● 家庭用食品

ドレッシング(リケンのノンオイル、リケン サラダデュオ[®])、海藻製品(ふえるわかめちゃん[®]、わかめスープ)、和風調味料(素材力だし[®])、レトルト食品等を一般ご家庭向けに提供しています。

● 業務用食品

学校給食や外食産業にドレッシング、海藻製品、和風・洋風・中華風の調味料やスープ、米飯調味料といった加工食品を提供、また、コンビニ等の中食市場にも、各種調味料等を提案しています。

● 加工食品用原料等

国内加工食品メーカー向けに食品用改良剤・色素・ビタミン等を、また、医薬品・健康食品メーカー向けにはビタミンをはじめとする各種ヘルスケア素材等を、それぞれ幅広く提案しています。



第2四半期の概況

売上は「家庭用食品」「業務用食品」が前年同期を下回りました。「加工食品用原料等」は堅調に推移しましたが、事業全体では前年同期を下回る結果となりました。

「家庭用食品」では今春、発売30周年を機に「リケンのノンオイル」シリーズを一新しましたが、売上は前年同期を下回りました。一方で乾燥わかめ「ふえるわかめちゃん」は、健康・簡便ニーズの高まりによって好調な実績を維持しました。

「業務用食品」ではメニュー提案型の新商品を発売した冷凍海藻が伸長しましたが、エキス調味料は好調だった前年の反動で伸びを欠く結果となりました。

「加工食品用原料等」では顧客ニーズに的確に応えたソリューションビジネスの展開により、食品用改良剤が伸長しました。また、医薬用マイクロカプセルが実績を持ち直して大きく伸長しました。

営業利益は高付加価値商品の提案、販売促進費の適切な運用等の施策を推進しましたが、わかめ原料の高騰や広告宣伝費の増加等により前年同期を下回りました。

家庭用秋の新商品

甘酸っぱさが食欲を増す リケンのノンオイル 甘夏とゆず

国産の甘夏果汁にゆず果汁とゆず皮を合わせた、ほのかな甘みと爽やかさ



ちらし寿司
料理にゆずを添えるように、幅広いシーンで



美味さ与健康感の良いところどり リケンのノンオイル セレクティ[®] 塩こうじ玉ねぎ

国産米の塩こうじ使用で、やさしい甘みとまろやかな味わい



トマトとアボカドの塩こうじサラダ
健康素材を取り入れて



健康食材の海藻を手軽に 「あおさ」「太切りめかぶ」「海苔」を使った 美味しさ選べる海藻スープ 3種類

海藻を美味しく食べられる、だしと香りにこだわったスープ



〈あおさスープ〉



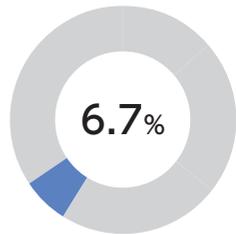
〈太切りめかぶスープ〉



〈うま塩海苔スープ〉

国内化成品その他事業

▶売上高構成比



事業内容

プラスチック、ゴム、化粧品、農業用フィルム、食品用包材といった国内化成品メーカー向けに、機能性付加や加工性向上に効果的な改良剤を提供しています。その他事業としては飼料用油脂等を販売しています。

▶売上高

32億79百万円
前年同期比98.8%

▶営業利益

3億43百万円
前年同期比95.0%

第2四半期の概況

「化成品(改良剤)」の売上は、化粧品分野において環境に配慮した製品による実績増があったものの、防曇用製品等をはじめとした既存市場において、関係先業界の業況を受けた一部の分野が伸びを欠き、前年同期を下回りました。

「その他」の事業では、飼料用油脂の売上が前年同期を上回りました。

この結果、事業全体では売上、営業利益ともに前年同期を下回りました。

▶売上高の推移(単位:百万円)



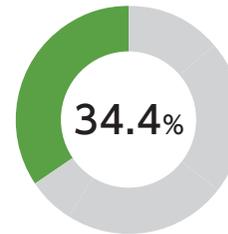
▶営業利益の推移(単位:百万円)



食品用改良剤を応用した植物由来の化成品用改良剤は、食品用包材で広く活用されています。

海外事業

▶売上高構成比



事業内容

「改良剤」分野は食品用改良剤、化成品用改良剤を海外拠点で生産・販売しています。販売先は中国・東南アジアをはじめ、欧州・米国等、世界の数十カ国にわたっています。「青島福生食品有限公司」(中国)は水産加工品、野菜等を中国国内や欧州・米国に向けて販売しています。

第2四半期の概況

「改良剤」分野は、情報発信基地である「アプリケーションセンター」の一つとして7月、上海に化成品の技術センターを開設しました。各アプリケーションセンターと世界各地に設けた販売会社との連携によるソリューションビジネスを強化し、既存市場の深耕および新市場の開拓を推進した結果、売上は前年同期を上回る実績となりました。

水産加工品を主力とする「青島福生食品有限公司」においては中国国内への販売ルート開拓等の事業構造改革により、売上が大幅に伸長して営業黒字に回復しました。

この結果、事業全体では営業利益は前年同期を上回りました。

▶売上高

168億85百万円
前年同期比144.5%

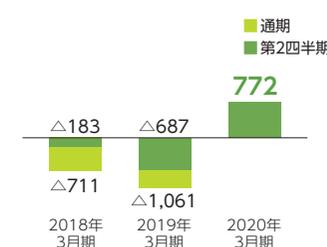
▶営業利益

7億72百万円
前年同期比一%

▶売上高の推移(単位:百万円)



▶営業利益の推移(単位:百万円)



上海市に化成品技術センターをオープンしました

化成品用改良剤の海外技術部門を天津から移設し、お客さまとの接点を強化

日本の化粧品、トイレタリー商品は中国市場でも広く受け入れられており、積極的に拡販を進めています。化成品技術センターに隣接する営業部門と連携し、お客さまとより密接に課題解決に取り組んでいきます。



化成品技術センターが入居するビル

「アプリケーション&イノベーションセンター」始動!

(A&Iセンター)

▶ 専門領域を越えた交流で、新しい価値を生み出す

2019年10月、3拠点に分かれていた食品用改良剤の国内研究開発拠点を集約し、基礎研究からアプリケーションまで実施する「アプリケーション&イノベーションセンター」を、千葉工場内に開設しました。

6階建て、延床面積約4km²の同センターでは、フリーアドレス制を採用してスタッフが専門領域の壁を越えて交流することで多様化を促進し、研究開発の活性化を図ります。また、海外アプリケーションセンターと連携して国内外に“おいしい情報”を発信していきます。

▶ アプリケーション&イノベーションセンターを詳しくご紹介しています!
<https://www.rikenvitamin.jp/application-innovation/>



アプリケーション&
イノベーションセンターの
一部をご紹介します!



麺試作室。開発した通用改良剤で実際に麺を打ち、使用されるお客さまの立場で検証。



海外アプリケーションセンターと常時接続し、連携をさらに強化。



屋上の様子。環境に配慮し、ソーラー発電や屋上緑化のほか、エアコン使用低減のため建物全体の配置を工夫。

食品用改良剤の事業紹介 常務執行役員インタビュー

Q 常務執行役員就任の決意を教えてください。

食品用改良剤事業は、当社の収益の柱となる重要な事業です。このたびアプリケーション&イノベーションセンターが完成しました。新しい体制のもと、国内はもとより、当社の成長エンジンである海外事業の発展にも寄与していきます。

Q アプリケーション&イノベーションセンターで実現させることは何ですか。

アプリケーション&イノベーションセンターのテーマは「つなぐ」です。食品用改良剤の技術者が一堂に集まりましたので、基礎研究からアプリケーション提案をつなぎ、国内の技術を海外へつなぎ、国内外の食卓へ新しい価値を提供していきたいと考えています。

Q 食品用改良剤とはどんなものですか。

会社名の由来でもある**ビタミン**や、**乳化剤**、**天然由来の色素**等、加工食品の製造に使用される原料です。食品の持ち味をひきだすものや、おいしさを長持ちさせて食品ロス削減に役立つもの等、幅広い効果で皆さまの食卓に「おいしい」「便利」等の豊かさをお届けしています。

▶ 毎日の食生活を便利に楽しく支える「食品用改良剤」



乳化剤(パン)
やわらかさを長く保って
おいしさが続く



ビタミン(シリアル)
マルチビタミン配合で
手軽に栄養補給



色素(ゼリー)
天然由来の色素で
自然なおいしさを表現



道津 信夫 (どうつ のぶお) 1985年入社、2009年食品改良剤開発部長を経て、2019年に常務執行役員就任。

理研ビタミンのCSR

“乳化剤のしくみとはたらき”を紹介するサイト「WHAT'S 乳化剤」

改良剤事業の中核を担う乳化剤は、さまざまな加工食品で使われており、皆さまの食生活を便利においしく支えています。

この乳化剤が、身近な食品でどのように役立っているのか、また安全性の確認はどのように行われているのかを、生活者の皆さまへお伝えするサイトをオープンしました。食に関するさまざまな情報があふれるなかで、当社は乳化剤メーカーとして分かりやすい情報提供を通じて食の安心安全に貢献していきたいと考えています。

▶ WHAT'S 乳化剤 <https://www.rikenvitamin.jp/nyukazai/>



乳化剤は身近な食生活に貢献しています！

持続可能性に配慮した原料を使用し、改良剤を供給しています

当社グループでは、改良剤事業においてパーム油をはじめとする植物油を主な原料として使用しています。

“社会や自然との調和を図りながら事業活動を行う”という環境方針のもと、当社グループは国内外の主要な改良剤生産拠点においてRSPO（持続可能なパーム油のための円卓会議）のサプライチェーン認証を取得しました。改良剤の一部製品では、RSPO認証油を使用して生産・供給を行っています。

環境や社会に配慮して生産されたRSPO認証油を使用することで、森林や生物多様性の保全のほか、さまざまな課題への取り組みにつながります。



私たちの進捗状況を
www.rsपो.orgでチェックしてください。
<https://www.rsपो.org/members/4867/>

CSRレポート2019発行のお知らせ

理研ビタミンでは、当社のCSRに対する考え方や活動内容についてステークホルダーの皆さまに報告することを目的に、毎年CSRレポートを発行しています。最新レポートはこちらからご覧ください。

▶ CSRレポート <https://www.rikenvitamin.jp/csr/library/report/>



株式の状況 (2019年9月30日現在)

- 発行可能株式総数 90,000,000株
- 発行済株式の総数 20,352,550株
- 株主数 8,506名

大株主(上位10名)

	持株数(千株)	持株比率(%)
理研ビタミン取引先持株会	1,483	8.98
キッコーマン株式会社	993	6.02
株式会社みずほ銀行	866	5.25
三菱UFJ信託銀行株式会社	600	3.64
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (ミヨシ油脂株式会社退職給付信託口)	540	3.27
株式会社三菱UFJ銀行	527	3.19
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	443	2.69
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	426	2.58
住友生命保険相互会社	363	2.20
永持 景子	343	2.08

(※1) 当社は、自己株式3,853千株を保有しておりますが、上記の大株主から除いております。
(※2) 持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

■株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同連絡先	東京都府中市日鋼町1-1 TEL:0120-232-711(通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL: https://www.rikenvitamin.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。)

お知らせ

1. 株主さまの住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店で支払いたします。

会社概要 (2019年9月30日現在)

商号 理研ビタミン株式会社
設立日 1949年8月27日
本社所在地 〒101-8370
東京都千代田区神田三崎町2-9-18
TEL(代表) 03-5275-5111
ホームページアドレス <https://www.rikenvitamin.jp/>
資本金 2,537百万円
事業内容 家庭用食品、業務用食品、加工食品用原料、
食品用改良剤、化成品用改良剤、
ビタミン類等の製造・販売

従業員数 954名(連結2,309名)

取締役

代表取締役会長 堺 美保
代表取締役社長 山木 一彦
代表取締役専務 伊東 信平
常務取締役 大澤 寛
常務取締役 佐藤 和弘
取締役 仲野 隆久
取締役 指田 和幸
取締役 常勤監査等委員 属 博史
社外取締役 常勤監査等委員 藤永 敏
社外取締役 監査等委員 北原 弘也
社外取締役 監査等委員 竹俣 耕一
社外取締役 監査等委員 末吉 永久

常務執行役員

常務執行役員 道津 信夫
常務執行役員 望月 敦

執行役員

執行役員 有賀 朗
執行役員 藤田 満
執行役員 黒澤 道夫
執行役員 加藤 栄一
執行役員 中村 一知
執行役員 村上 斎
執行役員 栗原 浩
執行役員 渡辺 毅彦
執行役員 小山 真一
執行役員 菊池 英知
執行役員 牧之段 武彦
執行役員 青木 巧

株主優待のお知らせ

株主さまの日頃のご支援に感謝するとともに、
当社の事業内容をより一層ご理解いただくため、
株主優待制度として当社製品を贈呈しております。

対象株主さま

▶ 毎年3月末および9月末現在の株主名簿に記載された
100株以上を保有している株主さま

優待内容

▶ それぞれの基準日現在の対象株主さまに対し、保有株式数および
保有期間に応じて下記の基準で当社製品を贈呈いたします。

贈呈予定時期

▶ 毎年6月下旬および11月下旬



3,000円相当の製品例

※写真はイメージです
※パッケージは変更になる場合があります

保有株式数	保有期間3年未満	保有期間3年以上 ^(注)
100株以上～500株未満	1,000円相当	2,000円相当
500株以上～1,000株未満	2,000円相当	3,000円相当
1,000株以上～3,000株未満	3,000円相当	4,000円相当
3,000株以上～	4,000円相当	5,000円相当

(注) [保有期間3年以上]の対象となる株主さまは、毎年3月末および9月末の株主名簿に同一一株主番号で7回以上連続して記載された株主さまとなります。